



栃木県立大田原高等学校

全
日
制



所在地 〒324-0058 大田原市紫塚3丁目2651番地
 電話 0287-22-2042
 F A X 0287-23-9691
 U R L <http://www.tochigi-edu.ed.jp/otawara/nc2/>
 創 立 明治35年
 課 程 全日制課程
 設置学科 普通科
 生徒数 635人(男子635名)
 (令和3年5月1日現在)
 利用交通機関 西那須野駅からバス「稲荷前」下車 徒歩5分

I 学校の概要

1 学校教育目標

校 訓 「質素堅実」

教育目標

校訓「質素堅実」のもと、次の教育目標を掲げる。

- 真剣に学習に取り組み、豊かな創造力と正しい判断力を養う。
- 心身を鍛練し、不屈の精神と逞しい実践力を養う。
- 自他を敬愛し、感謝の心と奉仕の態度を養う。
- 規律と責任を重んじ、協同・連帯の精神を養う。

2 目指す学校像

文武両道の実践をととして、未来を力強く切り拓くとともに、社会の発展に貢献できる逞しいリーダーを育成する学校

- 高い知性と豊かな心、逞しい身体を育成する。
- 個性を活かし、主体的に未来を切り拓く人材を育成する。
- グローバルな視点で、国内外で活躍できるリーダーを育成する。

3 募集する生徒像

本校の教育目標、目指す学校像を理解し、次の（１）又は（２）のいずれかに該当する生徒

- （１）進路について明確な考えを持ち、自己実現のために意欲的に努力する生徒
- （２）生徒会活動、学校行事、部活動等に積極的に取り組み、学業と両立できる生徒

II 学校、学科、コース、教育課程等の特色

本校は明治35（1902）年に栃木県立大田原中学校として創設、昭和23（1948）年栃木県立大田原高等学校と改称され、今年度、創立119周年を迎えた県内屈指の伝統校です。「質素堅実」を校訓とし、人間の成長を重視し、「素地（そじ）」を磨く教育を目指します。

- 1 授業を第一とし、学校生活の中心に授業を据えます。
- 2 「85キロ強歩」と「寒稽古」を実施し、心身を鍛えます。
- 3 部活動を奨励し、生徒の個に応じた成長を支えます。

学科は普通科のみで、履修する教科と週あたりの時間数などは下表の通りです。

○教育課程の概要

		国語	地歴	公民	数学	理科	保体	芸術	英語	家庭	情報	SS探求
1年		5	2	2	6	4	3	2	6	2		1
2年	文型	6	5		6	4	4		6		1	1
	理型	4	3		6	8	4		6		1	1
3年	文型	7～10	5	0～3	0～5	0～3	2～4	0～3	6～9	0～3	1	1
	理型	4	3		8	8	2		6		1	1

※1年の「芸術」は、音楽Ⅰ、美術Ⅰ、書道Ⅰからの選択です。

※「SS探求」は、1年は「SS探求Ⅰ」、2年は「SS探求Ⅱ」、3年は「SS探求Ⅲ」です。

※3年文型の「X～Y」は、週あたりの授業時間が基本的には「X時間」ですが、選択の仕方によっては週あたり「Y時間」の授業があることを意味します。

※3年文型の「0～Z」は、その科目を選択した生徒は週あたり「Z時間」の授業があることを意味します。

○スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校

令和元年度より文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受けました。過去3年間県の「コア・スクール」プランの指定を受け開発したプログラムを発展させ、文理融合型課題研究プログラムの開発を通して、志と科学的リテラシーを持った人材を育成します。

【研究開発課題】

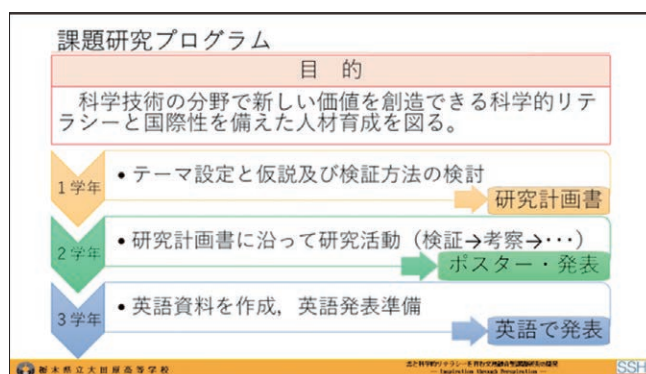
志と科学的リテラシーを育む文理融合型課題研究の開発
— Inspiration through Perspiration —

【概要】

- 社会問題啓発プログラム
社会的事象・自然事象への興味関心を高め、社会参画意識の高揚を図ります。
- 課題研究プログラム
課題発見能力・解決能力・協働力を高め、論理的思考力と科学的リテラシーを育てます。
- ICT活用能力育成プログラム
情報解析・整理・統合力を高め、情報発信能力を育てます。



〈課題研究成果発表会〉



Ⅲ 進路状況

1 大学入試合格状況

- (1) 令和2年度卒業生 国公立大学合格者数 110名
- (2) 卒業年度ごとの主要大学の合格者数

○令和2年度

東京3 東北7 北海道1 東京藝術1 東京学芸2 筑波4 埼玉5 新潟9 横浜国立1
静岡3 金沢2 茨城2 広島1 山形5 福島8 宇都宮19 横浜市立1 東京都立2 秋田1
岩手2 富山1 早稲田6 慶応5 明治21 法政19 立教4 中央11 青山学院7
東京理科11 芝浦工業14 学習院1 専修10 日本28 東洋6 駒澤10 東海18
国際医療福祉17 白鷗24

○令和元年度

東京2 東京工業大1 東北7 筑波2 埼玉8 電気通信1 新潟11 横浜国立3 静岡3 広島1
信州1 茨城1 山形13 福島3 宇都宮21 横浜市立1 秋田5 岩手2 山形13 群馬2
富山3 早稲田3 慶応3 明治6 法政11 立教4 中央10 青山学院2 東京理科12
芝浦工業18 日本32 東洋2 駒澤10 東海15 関西4 国際医療福祉13

○平成30年度

東京工業2 東京外国語3 東北4 筑波2 千葉3 埼玉5 電気通信1 新潟7
横浜国立2 静岡2 広島1 信州1 茨城6 山形11 福島9 宇都宮24 首都大東京1
横浜市立1 都留文科1 自治医科1 獨協医科2 早稲田2 慶応3 明治10 法政8 立教1
中央11 青山学院3 東京理科4 国際基督教1 芝浦工業11 日本43 東洋14 駒澤9
東海15 関西1 国際医療福祉11

2 卒業生の最終進路

年度	国立大学	公立大学	私立大学	専門学校	就職	在家・浪人
R2	82	15	99	5	0	26
R1	91	14	91	6	2	33
H30	79	17	109	0	1	22

IV 特別活動等の紹介

1 学校行事

(1) 85キロ強歩

昨年度は未実施ですが、一昨年度で33回目の実施を数えた、毎年5月下旬の2日間で実施する本校の伝統行事です。生徒は午前9時45分に学校を出発し、いくつかの休憩ポイントを経由しながら85キロを歩き通し、翌日の11時に学校に帰着します。疲労や眠気と戦いながら長い距離を踏破する過酷な行事ですが、毎年、9割以上の生徒が完歩を果たしています。保護者の方々や地域の皆様から多大な御協力を得て実施される本校の一大行事となっています。



(2) 寒稽古

毎年、「大寒」の時期の1週間、朝の6時30分から柔道、剣道、弓道、耐寒マラソン（7km）の各種目に分かれて1時間程度心身の鍛錬に励む伝統行事です。参加は任意ですが、例年9割前後の生徒が参加し、センター試験を終えたばかりの3年生も多数参加していました。昨年度は実施できませんでしたが、今年度も共通テストの翌日から実施する予定です。最終日には保護者の方々のご尽力で、豚汁を振る舞っていただく納会が催されます。



(3) 海外短期研修

1, 2年生の希望者を対象にアメリカでの海外短期研修を実施しています。授業ではディスカッションの技能を学び、世界各国から来た留学生との交流やホームステイを通して異文化理解を深め、また教育・文化の街であるボストンの大学や文化施設への訪問を通じて見聞を広めることを目的としています。感受性豊かで吸収力が高い本校生にとって海外に赴き、大きな刺激を受けることが可能性を開花させる絶好の機会になっています。今年度はコロナウイルスの影響もあり、実施困難ですが、今後も海外の大学や高校とZOOM等を使うことで継続的な交流を行いたいと考えています。



〈ハーバード大学
正門前〉



〈マサチューセッツ州
議事堂内〉

2 部活動

【運動部】

陸上競技

野球

バスケットボール

ソフトテニス

弓道

剣道

山岳

スポーツチャンバラ

水泳

サッカー

バレーボール

卓球

柔道・相撲

バドミントン

硬式テニス

スキー

【文化部】

SSC（スーパーサイエンスクラブ）

吹奏楽

青少年赤十字（JRC）

囲碁・将棋

書道

調理

合唱

美術

文芸

写真

英語

【同好会】

クイズ研究会

(1) 運動部

野球、陸上競技、山岳、バスケットボール、バレーボール、サッカー、柔道・相撲、剣道など、15部が活動しています。昨年度は、全国大会にスキー部、水泳部が出場しました。関東大会には陸上競技部が出場し、三段跳びで6位入賞を果たすことが出来ました。この3年間で陸上競技、柔道・相撲、ソフトテニス、水泳、山岳の各部が関東大会以上の上位大会に出場しています。近年、関東大会以上の舞台で活躍する運動部が多くなり、どの部も「文武両道」を実現しています。

(2) 文化部

囲碁将棋、美術、合唱、吹奏楽、SSC（科学、情報工学）など13部が精力的に活動しています。昨年度、文芸部は全国大会出場を果たしました。写真部も関東地区高等学校写真展東京大会で審査員特別賞や、全国高校総合文化祭に作品を出展するなど活躍していました。また、SSC（スーパーサイエンスクラブ）自然科学班が、昨年に引き続き日本原子力文化財団主催の課題研究発表会で最優秀賞を2年連続での受賞となりました。SSC数学班生徒も、数学オリンピック全国出場するなど活動の幅を広げています。

3 その他

部活動以外の実績としては、生徒会役員を中心に構成される応援団は、学校行事や部活動の応援、本県インターハイ選手団結団式での演舞披露などを行い、県内でも注目を浴びています。



V 特色選抜について

1 定員の割合

普通科 20%程度

2 出願するための資格要件

本校での学習に適応できる学力を身に付けており、本校入学後も主体的かつ意欲的に学習に取り組む者で、次の（１）、（２）のいずれか又は両方に該当する者

（１）関心のある様々な事象について探求活動等に取り組んだ実績があり、自ら考える力、考えをまとめる力、考えを伝える力に優れ、本校入学後も様々な学びの場面で活躍できる者

（２）中学校在学中にスポーツ、文化活動、生徒会活動等において優れた実績をもち、その実践を通じて培った資質や能力を活かし、本校入学後も部活動等において活躍できる者

3 選抜の方法

選抜方法	内 容
面 接	個人面接 時間10分程度
作 文	時間40分 字数500字～600字

4 その他、特記事項

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校（文部科学省）（令和元年度から5年間）

5 選抜の手順等

【資料の取扱い】

1 志願理由書は、調査書とともに、資格要件の確認 及び面接時の参考資料として用いる。

2 調査書の「各教科の学習の記録」（第1学年～第3学年）は、

①全教科（選択教科を除く）の評定を合計（135点満点）し、段階評価を行う。

②国語、社会、数学、理科、英語の評定を合計（75点満点）し、段階評価を行う。

3 調査書の点数化されない部分及び面接の結果から、資格要件に該当する実績について段階評価を行う。

4 面接及び作文は、段階評価を行う。

【選抜の手順】

次の各段階に該当する受検者について順に、調査書の点数化されていない部分の内容を考慮して総合的に選抜する。

第1次審議

【資料の取扱い】の2①の評価が優秀又は良好な者のうち、2②の評価が優秀で、4の評価が優秀又は良好である者を対象とし、合格内定者を選抜する。

第2次審議

第1次審議で合格内定となった者を除いた受検者を対象とし、【資料の取扱い】の3と4の評価がいずれも優秀又は良好であり、2①又は2②の評価が優秀又は良好な者を対象とし、合格内定者を選抜する。

第3次審議

第1次審議及び第2次審議で合格内定となった者を除いた全ての受検者について、全ての検査結果を総合的に判断して、合格内定者を選抜する。